

植物と人々の博物館メールマガジン

第 104 号 2023 年 10 月 3 日発行



蟬が鳴きやみ、未だ残暑の中でも、秋の虫の音が涼やかです。仲秋の名月に、三重県の知人からお芋さんを頂きました。団子も作り、ささやかな月見をしました。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に心情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合ってきました。

植物と人々の博物館は標本や書籍を整理して、今後も継続します。雑穀街道説明会で基調提案、編集子からの希望を述べました。ここで改めて一区切りですから、貴重な資料を託してくださった方、ご協力くださった皆様には、たくさんお礼申し上げます。ありがとうございました。

1. 植物と人々の博物館

○予定 開館・作業予定日：2024年3月まで随時未定。

資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整して開館します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

- 1) 西原のびりゅう館に財団法人森とむらの会蔵書の一部を置かせていただきました。
- 2) 9月11日；ドキュメンタリー映画の撮影に同行。
- 3) 9月22日午前；和ハーブ協会案内、午後；雑穀街道を世界農業遺産に登録申請の説明会
- 4) 10月2日；スウェーデンから調査来訪。
- 5) 民族植物学ノオト第17号は2024年3月末に発行する予定です。皆様も自由にお書きくださり、ご寄稿ください。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

6) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から第3章インド亜大陸の食文化まで改訂し、旅行記録の一部、第9章パキスタン、アフガニスタンを公開しました。現在は、第12章中央アジア諸国ほかヨーロッパへと書き進み、たくさんの探検記を参照しています。一方で第4章南インドの雑穀文化複合をまとめています。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うようにまとめる方向に向かいます。同時に、50年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

7) 公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/> も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されます。すべての記事は無料で公開しています。

8) 森とむらの図書室への寄贈など

今後のご寄贈は辞退いたします。「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、「つぶつぶ」ほかをいただきました。ありがとうございました。季刊「つぶつぶ」への連載は雑穀物語 4 (終) ～貝沢薫夫妻を寄稿しました。貝澤さんはすでに他界にお住まいです。「クリンネス」の連載エッセイも辞退しました。

9) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。ゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただき、ありがとうございます。これまでに 5,884 円頂きました。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。2023 年度末で決算報告をします。

2. 自然文化誌研究会

○報告

9 月 30 日(土)～10 月 1 日(日)、INCH まつり (ライブ)、小菅村のいつものキャンプ場

運営委員会で、キャンプ場の管理および植物と人々の博物館の再興について継続議論。

○予定 詳細はホームページでご覧ください。

12 月下旬 (23-25 or 26-28)、まふゆのキャンプ、15 名
小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会：

本会は目的を果たせず、今後の活動については、関係者の皆様にご相談しましたが、特にご意見はありませんでした。事務幹事の木俣は、役割を果たしましたので、必要な残務整理をしてから、辞任します。また、本会は行政および地域社会からの賛同が得られずに、成果を示せなかったため、解散を提案します。この 10 年間の経緯については、「雑穀街道普及会の顛末書～大きな感謝と少ない謝罪 (仮題)」を民族植物学ノオト 17 号に書いて、詳細をご報告し、記録を残します。

会費は基本的にはいただいておりますので、おおかたの活動経費は NPO 法人自然文化誌研究会／植物と人々の博物館へのご寄付ほかで賄っています。したがって、本会に対する関連経費の決算報告の義務はありませんが、誤解が生じないように、最近の決算報告は次の通りです。

① 主な使用経費

趣旨説明書（3000 部）印刷代； 141390 円、郵送費； 26070 円、会議費； 40135 円のほか、文具や複写代などは事務幹事個人。

② 経費の出所

NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館基金（任意寄附）および事務幹事個人

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を公開しています。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。

雑穀街道普及会に関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開しています。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millstr.html>

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

(33) [雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NPO4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。しかし、すでに機能不全ですので、今後、下記の予定を開催してから役割を終えます。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

○ 予定

1) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

国際雑穀年を契機として、在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善しましょう。山村において生物文化多様性を現地保全します。プラン

タでも栽培できるように栽培の手引きや雑穀種子を差し上げます。栽培から、加工・調理まで実習し、また、収穫物で美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう。

第 18 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：2023 年 10 月 22 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩および藤野

実習：アワ、シコクビエなどの脱穀、防雀網の片づけ、キビ発泡酒の試飲。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男（雑穀街道普及会）

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

集合場所：上野原駅バス停 8：30 または現地近くの石楯尾神社前（周辺地図）。藤野駅の北側にある神社です。同名の神社が南にもあるので、間違えないでください。

<https://map.yahoo.co.jp/?lat=35.65645&lon=139.11944&zoom=19&maptype=basic>

駐車場はあります。更衣が必要なら、近くの公民館を予約してあります。

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力： ジャズ・ブルワリー

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

参加費は不要ですが、活動への任意の寄付は歓迎します。

交通案内： JR 中央線／上野原駅南口からバスがある。

電車 <行き>上野原駅 甲府方面から 8：00 着。東京方面から 8：26 着
手洗いは南口下にもあります。

<帰り>上野原駅 甲府方面へ 15：59 発。東京方面へ 16：01 発

バス <行き>上野原駅 8：35 発、石楯尾神社前 8：55 着。

<帰り>石楯尾神社前 15：31 発、上野原駅 15：53 着。

更衣など施設 公民館

バス利用の方は、木俣が上野原駅南口エレベーター下でお待ちします。

2) 自給農耕ゼミ（小金井）第 7 回

○ 日時：11 月 19 日（日）14：00～16：00

○ 場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

（定員：会場 15 名、オンライン 20 名）

○ プログラム：

話題：①果てしない穀実物語：世界の穀物料理の起源から心の構造と機能を学ぶ

②雑穀発泡酒の試飲

話者：木俣美樹男（話題 60 分、座談会 60 分）。

要旨：美味しい料理の研究は多いが、穀物料理の起源研究は少ない。中尾佐助『料理の起源』を読み解き、インド亜大陸をめぐる研究から、世界の穀物料理の起源と伝播についてお話したい。

座談会では、自給農耕ゼミ（佐野川）で栽培したキビを用いた雑穀発泡酒を試飲していただく。

○自給農耕ゼミの趣旨：市民農園や都市農業をもっと広げたい、小金井でエディブル・ウェイ（食べられる道）を作ってみよう、エコミュージアムなまちづくり、雑穀や野菜の在来品種についてもっと知りたい、どのように幸せな暮らしを築くのかなどなど、家族農耕 farming をゆったりと語りあう会です。希望は人新世を生き物の文明へと移行することにあると思います。お気軽にご参加ください。

参加申込みをしてくださった方には当日の ZOOM の URL と会場配布資料をメール添付でお送りします。来場をご希望の方には会場定員内で交通案内をお伝えします。

○ 協催：カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館

○ 申込み連絡先： 042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または
office@katayamakaoru.net

*会場参加費は 300 円（お茶、資料代）、任意の寄付。

*このゼミの動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開します。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

*内容についてのご質問は kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（事務担当）

○ ZOOM の URL： オンライン・アクセス先は参加申込者にメールで連絡します。

3) 種子を差し上げます。

ディル； キュー植物園で買ってきたディルを自家採種し、20 年ほどになります。これからは播き時です。プランタに播いて、間引きしながら、来年の初夏まで楽しめます。ジャガイモ料理に合います。

半白キュウリ；播くのは来年春ですが、岡部さんから言付かりました。塩昆布和えなどにすると美味しいです。

各種雑穀；自給農耕ゼミ（佐野川）や自宅で種継をしてきた雑穀類を差し上げます。麦茶のように煎って飲んでも、ポップ・コーンにしても良いです。ドライフラワーにしても楽しいです。

◎ 報告

1) 雑穀街道を世界農業遺産に登録申請する説明会の報告

上野原市長のご厚意で会場を貸していただき、開催しました。山梨県知事、上野原市長、小菅村長、丹波山村長、神奈川県知事、相模原市長、同緑区長ほかにご協力をお願いしました。賛同団体や新聞社にもご案内しました。関係 2 市 2 村からは担当課職員の方々が、山梨日日新聞の記者の方もご参加くださいました。会場を貸与くださいました上野原市長村上信行様はじめ職員の皆様に感謝申し上げます。しかしながら、地域行政や住民の方々の賛同は十分には得られずに、10 年の普及活動の成果は芳しくなかったと思いました。

目的：行政担当者や地域住民に、雑穀街道の歴史的誇りと未来への重要さを学術的、実践的に説明し、FAO 世界農業遺産登録申請に関する理解を深めていただき、ご賛同を勧める。

日時：9月22日（金）午後2～4時

場所：上野原市役所隣接、もみじホール（文化ホール）2階会議室2

参加者：会場 56名、ウェビナーZOOM 27名

主な内容：

1. 雑穀街道と植物と人々の博物館

～雑穀など在来作物の重要な価値、里山での生業の継承を学び楽しむ

2. 雑穀街道筋の住民による家族農耕・農業の実践報告

3. 里山エコビレッジ創造や縄文リビングラボの設立構想

4. 話し合い。

共催：雑穀街道普及会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、ワノサト・エコビレッジ、協賛：雑穀街道地域の賛同市民団体、他関心ある方々。

2) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 詳細は別添付、東京学芸大学公認事業

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道美味の新商品になることを期待します。国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念として醸造しました。第1回目は9月2日に仕込み、もうすぐできる予定です。長らくお待たせしてごめんなさい。第2回は10月末になるようです。出来次第、改めてご連絡し、お支払いくださった方から順にお送りします。募集は終了しました。ご協力ありがとうございました。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会

連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

3) 第17回自給農耕ゼミ（佐野川） 7名参加。

日時：2023年9月17日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩および藤野

実習：アワ、シコクビエなどの収穫、キビの脱穀など、雑談会

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>  
エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会 (山梨県小菅村)：代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

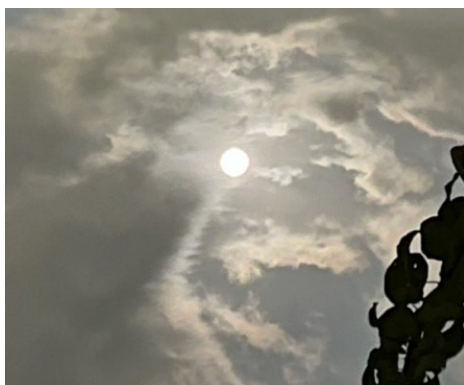
自然文化誌研究会：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)  
<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/> 事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村)

~~~~~

写真



佐野川の自給農耕ゼミの雑穀畑、雑穀街道説明会の様子



仲秋の名月

おわりに {ひとりごと／編集子私言}

文化的進化が近代ヨーロッパにおける心の自由、平等、友愛にあると思い、これに敬

意を持ち実践してきた。人新世初期において、私たちは生き物の文明へと移行することに希望を見つけない。

しかしながら、現実では、ヨーロッパの社会経済システムとして世界を二分しようとしてきた資本主義と共産主義が欧米を越えて、第三世界をも巻き込み、多くの人々を差別分断し、戦争に巻き込み、不幸にしてきた。この惑星の自然史を超える地球規模の気候変動は現生人類ホモ・サピエンスの欲望が過剰に昂進した結果によるものであり、二酸化炭素の削減などによって解決できることではない。大方の世間はそのことを直感しているのだろうが、過剰な欲望という不都合な事実を三猿を決め込み、問題の本質を深く探究することを避けている。50年以上前にテイラーらが警告していたように人口が暴発し、80億人を超え、動植物の感染症は度重なっている。自然災害が拡大し、戦争・紛争も多発しており、一方で、科学技術が過剰な便利を与えた故に、不幸なことに心を病み、孤立する人々も多く、一層、心の自由、平等、友愛を衰微させている。

さて、編集子は高齢になり、後片付けをして、今年度で研究員を退任する。人生では多くの師友、先達に恵まれて、大事にさせていただき、自由気ままに研究をしごとにしてきたことに、満足し足るを知った。とても感謝している。一方で、この我儘を支えてくれた、大事な家族を幾たびも蔑ろにした。いまさら恨み言は言わずに、世間から消えることにしたい。残り少ない余生は美しい事物を見る時間を遊びたい。この世界を深く理解するために、せめて自選集を書き綴り、文芸を楽しみたい。

人新世 日本での出来事を中心に

暦年	原子力関係	国連宣言	人為災害・人為的環境変動	自然災害・地史的環境変動	世界的流行	情報通信
1945	トリニティ実験、原子爆弾の広島・長崎への投下		第2次世界大戦後、化石燃料の使用増大、二酸化炭素排出量急増 (1950's)、温暖化	枕崎台風	人口爆発、家畜飼養数の増加開始 (1950)	テレビ放送開始 (1953)
1948		人権宣言		福井地震、トルクメニスタン地震		
1954	ビキニ環礁水爆実験、第5福竜丸など被曝		水俣病 (1956)、新潟水俣病 (1964)、イタイイタイ病 (1910~1970's)、四日市喘息 (1959~1972)	伊勢湾台風 (1959)	アジアかぜ (1957)	
1963	東海村の動力試験炉JPDR初発電		緑の革命 (1968)		香港かぜ (1968)	
1970	核拡散防止条約			バングラデシュ/サイクロン		
1972		人間環境宣言	ヴェトナム戦争終結 (1975)	中国・天津~唐山/地震 (1976)		
1979	スリーマイル島原子力発電所事故		遺伝子組み換え (1980's)		後天性免疫不全症候群 (1984)	インターネットの普及 (1982)
1986	チェルノブイリ原子力発電所事故		アメリカ同時多発テロ (2001)	阪神・淡路大震災 (1995)	牛海綿状脳症 (1986)	
1993		生物多様性条約				
2007		先住民権利宣言	ゲノム編集 (2005)、ピークオイル (2006)	インド洋地震/津波 (2004)、ミャンマー/サイクロン (2008)、ハイチ地震 (2010)	鳥インフルエンザ (2005)、豚インフルエンザ (2009)	SNSの普及 (2004)
2011	福島原子力発電所炉心溶融		放射性物質拡散 (2011)	東日本大震災 (2011)、御岳山噴火 (2014)		
2017	核兵器禁止条約			台風18号 (2015)		
2018		小農権利宣言		豪雨		
2019					コロナウイルス急性呼吸器疾患 (2019~2023)	人口知能AI (2020)、ビッグ・データ
2022	ロシアのウクライナ侵略戦争				鳥インフルエンザ	
2023	フクシマ汚染処理水海洋排水	国際雑穀年	有機フッ素化合物、マイクロプラスチック	トルコ、モロッコ地震。リビア大洪水、森林火災	豚熱	ChatGPT